

うねどり 卯子西の 淵

春を呼ぶ市民手作りの舞台、遠野物語ファンタジー。「卯子西の淵」は2月24・25日の両日、遠野市民センターで公演されました。全3回の公演に1003人が来場。会場は、感動の渦に包まれました。

今作は主人公・ミツと利一の恋模様を描いたストーリー。『遠野物語拾遺』35話に登場する卯子西神社（下組町）を舞台に、萩野友理恵さん（遠野町）が原案、脚本検討委員会が脚本を手掛けました。願いを書いた紙を神社に自生する葦に結ぶと男女の恋が成就する——。その神社に通う2人に起る困難を通じ、人と人との縁を表現しました。

舞台は、総勢250人の市民が約5カ月にわたって準備。当日は、ファンタジー・ミュージック・アンサンブルの生演奏と合唱が物語の世界に引き込み、下組町の郷土芸能団体「下同心会」や遠野市民センターも登場。演出を担当した小林立栄さん（六日町）は「道具制作や音響など、各部門からアイデアがたくさん出て、みんなで良いものを創れた公演でした。スタッフ、キャストともに楽しみながら舞台に臨むことができたと思います。市民の皆さんにも楽しんでもらえるよう、また来年頑張りたいです」と次回の意気込みを語りました。

49回目の春を呼んだファンタジーは、来年節目の50回を迎えます。

最後まで楽しくやり切り、楽しく終えることができた

制作委員長
北湯口 芳春さん
=附馬牛町、68歳=

仲間に支えられ演技できたファンタジーは私の財産

仕事の関係で練習に参加できたのは週に3回。みんなと合わせる時間が短く不安もありましたが、仲間に支えられ演じることができました。ファンタジーは関わる人同士助け合う良さがあり、この出会いは私にとって大切な財産です。

皆さんに育てられ挑戦する素晴らしさを教えてくれた

初参加で初主演。知り合いに誘われ参加してみたらびっくりしました。でも、やってみたらすごく楽しい。何も分からない私に周囲は熱心に指導していただき、育ててもらつたと感じています。これを機会にいろんなことに挑戦したいです。

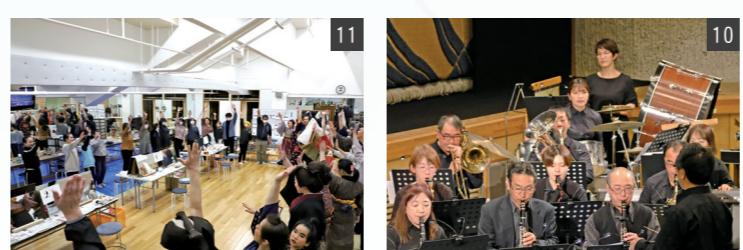


1_互いにいがみ合うミツと利一の父。両家が犬猿の仲であるのは、商いを始めた時期が重なり商売敵であることが原因だった 2_盗賊が利一の家に火を放つところを見つけ叫ぶミツ。この後、盗賊にさらわれてしまい、利一の父に放火の疑いをかけられる 3_祝宴を上げる光太郎とナカ。余興として下同心音頭が披露された 4_ナカの結婚を素直に喜べず、冷たく当たってしまったミツ。その様子を見た父は顎を叩き、利一のことはもう忘れろと言い放つ 5_恋を叶えようとする卯子西様と愛宕様。しかし2人はすれ違ったまま、物語は進んでいく 6_光太郎に取り押さえられた盗賊。犯した罪を白状しミツの疑いが晴れる 7_影で支えた裏方 8_華麗な舞を披露したバレエスタジオのメンバー 9_卯子西の淵に身を投げ、利一に助けられたミツ。ミツの父は改心し2人の結婚を認めた 10_生演奏・合唱が観客を物語に引き込んだ 11_公演直前、円陣を組むスタッフとキャスト



「一緒に片葉の葦に結びましょう——。」

恋文を葦に結び、永遠の愛を誓い合った



●あらすじ

将来を誓い合ったミツと利一。互いの家は村で有数の商家で仲が悪く、結婚できるよう縁結びの神「卯子西神社」へ足しげく通っていた。ある日、ミツは盗賊に襲われ行方不明に——。利一は探しに出かけるも、ミツを助け出したのは幕府の役人・光太郎。家に帰ったことを知らず、探し回る利一。帰路に着いたミツは帰ってこない利一を心配する。しばらくして、ミツの家で使用人として働くナカと光太郎が結婚する運びに。ナカの幸せを素直に喜ぶことができず家族とけんかするミツ。父から利一はもうこの世にいないと告げられ、自暴自棄になつたミツは卯子西の淵に身を投げる。利一はミツを助け出そうと自らも淵に飛び込む——。



ミツを助けるために淵へ飛び込んだ利一

最愛の人を守りたい気持ちが彼を動かす



全ての公演が終わり、最高の笑顔を見せたキャストの皆さん